

第九講 大鏡

次の文章は『大鏡』の一節で、語り手夏山繁樹の体験談として書かれている。これを読んで、後の問に答えなさい。

「いとをかしうあはれに侍りしことは、この天曆てんりやくの御時に、清涼殿の

御前おまへの梅①の木の枯れたりしかば、求めさせたまひしに、なにがしぬしの

藏人くらうどにていますがりし時、うけたまはりて、『若き者どもはえ見知らじ。』

きむぢ求めよ』とのたまひしかば、一京ひときやうまかり歩きしかども、侍らざり

しに、西の京きやうのそこそなる家に、色濃く咲きたる木の様体やうたいうつくしきが侍

りしを、掘りとりしかば、家あるじの、『木にこれ結ひつけて持てまゐれ』

と言はせたまひしかば、④あるやうこそはとて、⑤持てまゐりてさぶらひし

を、『なにぞ』とて御覽じければ、女の手にて書きて侍りける。

勅ちくなればいともかしこしうぐひすの宿はと問はばいかが答へむ

とありけるに、あやしく思おぼし召して、『何者の家ぞ』とたづねさせたまひけ

れば、貫之のぬしの御娘みむすめの住む所なりけり。『遺恨のわざをもしたりけるか

な』とて、⑥あまえおはしましける。繁樹こんじやう今生こんじやうの辱号ぞくがうは、これや侍りけむ。

さるは、『思ふやうなる木持てまゐりたり』とて、衣きぬかづけられたりしも、

辛くなりにき』とて、こまやかに笑ふ。

(注) ※天曆：村上天皇の御代の年号。

※清涼殿：天皇が日常生活をする御殿。

問一 傍線①「梅の木」とあるが、同じ意味を別の言い方で表現しているところを、本文中から抜き出しなさい。ただし、「木」または「木」を含む表現は除くこと。

問二 傍線②③⑥の解釈としてもつとも適当と思うものを、それぞれ左の各群の中から選び、符号で答えなさい。

②「いますがりし」

- A いらつしゃった B お仕えました C おりました
D ございました E ありました

③「え見知らじ」

- A 顔見知りではあるまい B 見分けようとはしまい
C 顔見知りにはなれまい D 見分けがつくまい
E 見たことがあるまい

⑥「あまえ」

- A いい気になって B きまりわるがって C 後悔して
D 満足して E あまやかして

問三 傍線④「ば」と異なる用法の「ば」を、傍線a b c dの中から一つ選び、符号で答えなさい。

問四 傍線⑤「あるやうこそは」を、平易な現代語に訳しなさい。

問五

「勅なればいともかしこしうぐひすの宿はと問はばいかが答へむ」の歌の主意として、もつとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 天皇への畏敬
- B 生き物への愛情
- C 天皇への疑問
- D 自らの孤独の訴え
- E 天皇への抗議

問六

次のア～カのうち、本文の内容と合致していると思うものに対してはA、合致していないと思うものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 清涼殿の前庭の梅の木が枯れ、村上天皇は代わりに色の濃い桜を探させた。

イ 繁樹は蔵人を勤めていたとき、命じられて都中を探しまわった。

ウ 繁樹をだしぬいて、若い者たちがすばらしい木を西の京で見つけた。

エ 貫之は娘のふりをして、女文字で歌を書いた。

オ 貫之の娘は身勝手な行為にたいして、優雅にたしなめた。

カ 繁樹は天皇に恨まれ、今生の恥と思ひ褒美を返した。

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

第九講

あはれ 重・深・暗
をかし 軽・浅・明

侍り
候ふ

〈謙讓〉

お仕え申し上げる

〈丁寧〉

です・ます・ございます

未然十ば

順接仮定（ナラバ）

⇔

已然十ば

順接確定

ノデ
トコロ
ト

なにがし
それがし

①だれそれ

②私（一人称）

え——打消
くデキナイ

きむ(ん)ぢ
なむ(ん)ぢ

お前・君

まかり+動詞↓くします

〈同 格〉

体言+の：連体形

がにを

うつくし

- ① かわいい・かわいらしい
- ② 立派である

あるやうこそは【有る様こそは】

何かわけがあるのだろうか

。下に「あらめ」が省略されている

文末強調の「ぞ」
だ！ よ！ ね！ か！

て【手】

- ① 筆跡・字
- ② 手段
- ③ 関係
- ④ 方向
- ⑤ 曲

句切れ

- ① 終止形がある
- ② 係結びがある
- ③ 終助詞がある
- ④ 命令形がある

いかが——連体

- 疑 どのように
- 反 どうして

紀貫之といったら

『土佐日記』

『古今和歌集』の撰者

『古今和歌集仮名序』（歌論）の著者

か や
けむ

く タダロウカ

さすがに
さりとも
さるは

そうはいつでもやはり

かづく【被く】

(四段) かきくくけけ

①(頭に)かぶる

②(ほうびを)いたたく

(下二) けけく るれよ
くくけ

①(頭に)かぶせる

②(ほうびを)与える

cf. かづく【潜く】 Ⅱ 水に潜る

歴史物語…歴史的事実を主材とした、かな物語

【平安】

栄華(花)物語

正編(上編)・
前編)30巻は
赤染衛門?

11世紀初

最初の歴史物語。編年体
(時間の流れを追って
い)。藤原道長の栄華を
中心とした物語。

大鏡

不明

12世紀初
(平安後期)

紀伝体(人物一人一人を
追っていく)。雲林院の
菩提講で二老人、大宅世継・夏山繁樹
が、繁樹の妻と若侍をはじめ多くの参
詣者を前にして、昔自分が体験した出
来事やこの目で見えた出来事を回想して
話していく会話体。
内容は文徳天皇850年〜後一条天皇10
25年の約170年間の歴史中心。道長の
栄華を中心としているが、政治の表裏
を批判する精神も入っている。

今鏡

不明

1170

紀伝体。大宅世継の孫で
紫式部にも仕えたこと
のある、つくも髪のお女
が語り手。

【鎌倉】

水鏡

中山忠親?

1195?

会話体。編年体(紀伝体と
いう説も)。内容は水鏡よ
り前の時代をまとめたもの。

【南北朝】

増鏡

二条良基?

1375頃

編年体。老尼が回想談
をする形式。

大鏡・今鏡・水鏡・増鏡をあわせて四鏡という。

「繁樹がいまから自分の体験を話します。」「たいそう趣があり、しみじみと感じましたことは、この村上天皇の御代（Ⅱ時代）に、清涼殿の御前の梅の木が枯れてしまったので、（代わりの梅の木を）探させなされたところ（または、『させ』を尊敬でとって、お探しになられたところともってきてもいい。あとでもう一回、俺が授業中にいった言葉を思い出せ！）、だれそれ殿が蔵人でいらっしやったとき（だれそれ殿が天皇に）うけたまわって、（つぎのセリフは、だれそれ殿が、繁樹に言うんだ、この辺をもう一回、ちゃんと復習しろよ）『若い者たちは、見知ることができないだろう（Ⅱよい梅の木が見分けられないだろう）。おまえが探すべきなさい』と（私、繁樹に）おっしやったので、（私は）京都中を歩きまわりましたけれども、（よい梅の木が）ございませんでしたのだが（または、ところ）、西の京（右京）のどこそこにある家に、色濃く咲いている木で姿が立派な木がございましたので、掘り取ったところ（今やったら捕まるよ！）家の主人（これは男もいれば、女もいる）が、『木にこれを結びつけて（宮中へⅡ帝のところへ）もって参上せよ』と（この家の召し使いに）言わせなされたので、『何かわけがあるのだろう』と（思っ）て（宮中にそれを）持参しましたところ、（村上天皇は）『何だ』とおっしやってご覧になると、女の筆跡で書いてございました（歌）

勅命（Ⅱ天皇のご命令）であるのでたいそう恐れ多い（ことでござい
ますが）、鶯が『（私の）宿は（どうしたのですか）』と尋ねたなら
ば、どのように答えたらよいでしょうか。

と（書いて）あったので、（天皇は）不思議にお思いいなっていて、『何者の家であるか』とお尋ねになられたところ、（その家は）貫之殿の娘様の住んでいるところであった。（天皇は）『（残念な（または、遺憾な）ことをしたもんだなあ』と（おっしやっ）て、恥ずかしがっていらっしやった。私、繁樹、一生の恥はこの事件でございましたでしょうか。そうはいって
もやはり（Ⅱそれなのに・そのくせ）、（次は天皇のセリフととるぞ）
『思いのまま（Ⅱ望みどおりの）木を持って参上した』と（言っ）て（ほ
うびとして）衣を与えられてしまったのも（Ⅱちようだいしたのも）、
（かえって）辛くなってしまうた』と（言っ）て、（繁樹は）にっこりと
笑う。